

令和3年度 知識集約型社会を支える人材育成事業審査結果

大学名	千葉大学	整理番号	7
メニュー	メニューⅢ インテンシブ教育プログラム		
事業計画名	インテンシブ・イシュー教育プログラムのモデル展開		

[採択理由]

本事業計画は質と密度の高い学修を各学期で実現するため、平成28年度に導入した6ターム制の学事暦の下、専門教育と教養教育の有機的な結合、課題先行型、問題索出型の学修を目指す教育改革を行うものである。先端的な教育の場である国際教養学部において、学生自らが学外での学びのあり方をカスタマイズできる「セルフデザインギャップターム」の導入など、日本の大学教育界における先駆的なカリキュラム構成は、極めて高く評価できる。

また、本事業計画は当該大学の全学の教育機能の強化を図るとともに、学修・学生支援の実施を目的とする「国際未来教育基幹」にて、基幹長である学長の下、本基幹を通じて全学的取組として発展させることとされており、学長を中心とした運営体制も十分に確立されている。特に、体制面においても、国際未来教育基幹に、「イノベーション教育センター」といった組織体制が整っており、補助期間終了後も継続的かつ発展的に取組の実施が十分に見込めるものとなっている。

国際教養学部においては、既に年間を6タームに分けて講義を展開しているが、本事業計画においては、第1、第4タームを集約的に学ぶタームとし、その他のタームを学生が自ら学外での諸活動に当てるセルフデザインギャップタームとすることで、学生一人一人の個別最適な学びを実現しようとしており、これは社会のニーズを踏まえ、現代的課題に即した教育プログラムの構築に適したものと言えるとともに、ターム制の利点を最大限活用する意欲的な取組である。加えて、様々な世界的、地域的な課題に応じたモジュールコースを設定することができることも、学修者本位のカリキュラムとして評価できる。

また文理混合による幅広い教養教育を実践する国際教養学部の取組を、今後は学部を超えた学位プログラムへと発展させ、全学において文理を融合する課題先行型教育を推し進めていこうという将来的な計画も非常に意欲的かつ意義あるものと言える。